

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方 (小学校 音楽科)



平成 23 年度から、小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については、平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が、平成 23 年 3 月には、「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が、国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は、新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして、佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

(主な内容)

- 1 新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
- 2 小学校音楽科における教科目標、評価の観点とその趣旨について
- 3 小学校音楽科における学習評価の進め方
- 4 小学校音楽科における学習評価事例
- 5 小学校音楽科における学習評価の進め方 Q & A



新学習指導要領における学習評価はこのようになります

◇新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については、児童生徒の「生きる力」の育成をめざし、児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため、目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し、児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて、学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

◇各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては、評価規準を適切に設定するとともに、評価方法の工夫改善を進めること、評価結果について教師同士で検討すること、実践事例を着実に継承していくこと、授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に、校長のリーダーシップの下で、学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また、年間指導計画を検討する際には、それぞれの単元（題材）において、観点別学習状況に関わつての最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが、評価すべき点を見落としていないかの確認や、必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き、効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

◇新学習指導要領における学習評価の観点について

(1) 従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「 <u>関心</u> ・ <u>意欲</u> ・ <u>態度</u> 」	→	「 <u>関心</u> ・ <u>意欲</u> ・ <u>態度</u> 」
「 <u>思考</u> ・ <u>判断</u> 」	→	「 <u>思考</u> ・ <u>判断</u> ・ <u>表現</u> 」
「 <u>技能</u> ・ <u>表現</u> 」	→	「 <u>技能</u> 」
「 <u>知識</u> ・ <u>理解</u> 」	→	「 <u>知識</u> ・ <u>理解</u> 」

(2) 新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様、各教科の学習に即した関心や意欲、学習への態度等を対象としたもので、その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容に即して考えたり、判断したりしたことを、児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり、ここでいう「表現」とは、これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく、思考・判断した過程や結果を、言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様、各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので、その趣旨に変更はありません。

小学校 音楽科における教科目標, 評価の観点及びその趣旨

1 教科目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

⇒これまでの理念を引き継いでおり、音楽科の教科目標は変わっていません。



2 評価の観点及びその趣旨

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え、味わって聴いている。

評価の観点がこれまでと変わったところは？

- これまでの「音楽的な感受や表現の工夫」の観点は、「音楽表現の創意工夫」として、表現領域における評価の観点となります。
- これまでの「表現の技能」の観点は、思考・判断したことを言語表現することと区別するために「音楽表現の技能」となりました。
- 「鑑賞の能力」の観点は、文言の変更はありませんが、これまで「音楽的な感受や表現の工夫」で評価していた鑑賞における音楽的な感受の部分も合わせて、この観点で評価することとなりました。

3 学年別の評価の観点の趣旨

	音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
第1・2学年	楽しく音楽にかかわり、音や音楽に対する関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いをもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲や演奏の楽しさに気付き、味わって聴いている。
第3・4学年	進んで音楽にかかわり、音や音楽に対する関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を伸ばし、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさに気付き、味わって聴いている。

第5・6学年	創造的に音楽にかかわり、音や音楽に対する関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を高め、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲想とその変化などの特徴を感じ取ったり、楽曲の構造、楽曲の特徴や演奏のよさを理解したりして、味わって聴いている。
--------	--	---	---	--

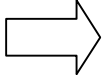
小学校音楽科における学習評価の進め方

1 評価規準の設定例と各観点の評価方法について



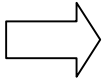
小学校音楽科の内容のまとめりごとの評価の観点とは？

「A表現」歌唱・器楽・音楽づくり



【音楽への関心・意欲・態度】
【音楽表現の創意工夫】
【音楽表現の技能】
の学習状況进行评估します。

「B鑑賞」



【音楽への関心・意欲・態度】
【鑑賞の能力】
の学習状況进行评估します。

評価規準は、どうやって設定するの？

各学校において、評価規準を設定するにあたっては、国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成のための参考資料」（以下参考資料）に示されている評価規準の設定例を参考にして、教材等の特徴に即して、その記述を具体化したり、必要に応じて、いくつかの設定例を参考にしたりすることにより、各学校で実施される授業に即した評価規準を設定することができます。

評価規準の設定例の下線部を、教材に即して具体化することにより、次のように評価規準を設定できます。

〈評価規準の設定例〉（第5学年及び第6学年：「A表現・歌唱」）【音楽表現の創意工夫】
音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，歌詞の内容，曲想などを生かした表現を工夫し，どのように歌うかについて自分の考えや願い，意図をもっている。

例えば、第6学年の歌唱教材「われは海の子」では

〈設定した評価規準〉【音楽表現の創意工夫】
「われは海の子」のリズム，旋律，強弱，フレーズを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，歌詞の表す情景や気持ち，曲想などを生かした表現を工夫し，どのように歌うかについて自分の考えや願い，意図をもっている。

各観点の評価方法は？



☆【音楽への関心・意欲・態度】は、どうやって評価するの？

この観点は、児童が学習内容に興味・関心をもち、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の学習に自ら取り組もうとする意欲や態度を身に付けているかどうかといった学習状況の評価するものです。

単に、挙手や発言の回数、授業態度の善し悪しや忘れ物の有無などだけで見るのではなく、その授業の指導目標や学習活動を踏まえて、学習の対象に対しての関心・意欲・態度を評価しましょう。

この観点は、ある程度長い区切りの中で適切な頻度で多面的に評価することが大切です。

⇒例えば、行動の観察、発言の内容、学習カードの記述、演奏の聴取等で見取ることができます。

☆【音楽表現の創意工夫】は、どうやって評価するの？

この観点は、音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度 等）を聴き取り、それらの働きによって生み出されるよさや面白さ、美しさ等を感じ取ることを支えとしながら、児童がいろいろと考えながら表現を試すなどして、音楽をどのように表すかについての思いや意図をもつことができているかどうかといった学習状況の評価するものです。

音楽をどのように表すかといった思いや意図の評価については、言語、音、楽譜、体の動きなどで見取ることができます。

例えば、「強弱」に着目し、「だんだん音量が大きくなっている」ことを聴き取り、感じ取った上で「必ず夢が叶うという気持ちが高まっているのを表すためにだんだん強く歌いたい」等のように、音楽表現をどのように工夫するかということについての思いや意図をもっているかどうかを評価します。

⇒例えば、学習カードの記述、発言の内容、児童との対話、演奏の聴取等で見取ることができます。

☆【音楽表現の技能】は、どうやって評価するの？

この観点は、児童が実際に歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている様子から、音楽表現をするために必要な基礎的な技能を身に付けて、実際に音楽で表すことができているかどうかといった学習状況の評価するものです。

正しい指づかいでリコーダーが演奏できているとか、正しい音程で歌うことができているといったような技術だけではなく、「こういうふうに表示したい」という思いを音楽で表すのに必要な技能を身に付けて音楽表現しているかどうかを評価することが大切です。

⇒例えば、演奏の聴取等で見取ることができます。

☆【鑑賞の能力】は、どうやって評価するの？

この観点は、音楽を形づくっている要素や音楽の仕組みを聴き取り感じ取って、楽曲全体の構造や特徴と関連付けて理解できているかどうかを評価するものです。

感想をたくさん書くことができたとか、作曲者名を覚えることができたとかということではなく、その授業の指導目標や学習活動を踏まえながら、〔共通事項〕事項アの学習を支えとして、楽曲全体を味わって聴くことができているかどうかを評価することが大切です。

例えば、「この曲は、うきうきした感じがしたが、それは、リズムが弾んだ感じで速度が速くなったから」といったように、聴き取り感じ取ったことを言葉等で表すことができ、そのことから楽曲の特徴や演奏のよさなどを考えることができるようなことが求められます。

⇒例えば、発言の内容、学習カードの記述、紹介文の記述等で見取ることができます。

小学校音楽科における学習評価事例 1



■ 題材全体を見通して、学習評価の進め方が分かる事例

事例1の題材では、歌唱・器楽教材として「こぎつね」（勝 承夫日本語詞/ドイツ民謡）、鑑賞教材として「人形のゆめと目ざめ」（オーステイン作曲/佐井孝彰編曲）を扱います。いずれも様子や気持ちを想像し、楽曲の気分を感じ取りやすい教材です。学習指導要領の内容は、「A表現」（1）歌唱の指導事項ア、イ、ウ、（2）器楽の指導事項イ、ウ、「B鑑賞」（4）鑑賞の指導事項ア、〔共通事項〕のうち旋律、拍の流れやフレーズ、反復などを扱います。6時間の学習計画を立て、バランスよく観点別評価を行うことにしました。ここでは、1単位時間に1つ～2つの評価規準を設定しています。

1 題材名 ようすをおもいうかべて 第2学年「A表現・歌唱」「A表現・器楽」「B鑑賞」
教材名 「こぎつね」歌唱・器楽 「人形のゆめと目ざめ」鑑賞

2 題材の目標

○ 楽曲の気分を感じ取りながら、想像豊かに聴いたり、思いをもって表現したりすることができるようにする。

3 題材の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<p>①「こぎつね」の歌詞の表す様子や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。【関一①歌唱】</p> <p>②「こぎつね」の楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏する学習に進んで取り組もうとしている。【関一②器楽】</p> <p>③「人形のゆめと目ざめ」の楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。【関一③鑑賞】</p>	<p>①旋律、拍の流れやフレーズ、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の表す様子や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりして表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願いをもっている。【創一①歌唱】</p> <p>②旋律、拍の流れやフレーズ、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の気分を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願いをもっている。【創一②器楽】</p>	<p>①自分の歌声や発音に気を付けて、歌詞の表す様子や気持ち、楽曲に合った表現で歌っている。【技一①歌唱】</p> <p>②「こぎつね」の旋律を拍の流れにのって鍵盤楽器で演奏している。【技一②器楽】</p>	<p>①「人形のゆめと目ざめ」の様子を思い浮かべたり、速度や強弱、楽曲の気分の変化を感じ取ったりしながら聴いている。【鑑一①】</p>

4 題材の指導と評価の計画（全6時間）

○学習内容 ・活動	評価規準	評価方法の具体（◇）とその進め方（・）
<p>第1時 「B鑑賞」</p> <p>○楽曲の気分を感じながら、「人形のゆめと目ざめ」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことを発表する。 ・音楽に合わせて体を動かす。 	<p>【関一③鑑賞】</p>	<p>◇発言の内容・行動の観察・児童との対話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聴いて、速度の変化とともに変わっていく楽曲の気分についての発言の内容（だんだん速くなっているから、人形が目覚めた感じがする等）を見取る。 ・音楽に合わせて体を動かしている様子（歩く・スキップをする・体を揺らす等）を補助簿に記録しておく。 ・「どうしてそう感じたの？」と問いかけ、聴き取った音楽を形づくっている要素について自分なりの言葉で積極的に話しているかどうかを見取る。

<p>第2時 「B鑑賞」</p> <p>○場面ごとの人形の様子を想像しながら「人形のゆめと目ざめ」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の気分が変わるところで人形の絵を挙げる。 ・人形の気持ちを発表する。 	<p>【鑑一①】</p>	<p>◇発言の内容・行動の観察・学習カードの記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面ごとの人形の様子や気持ちについて想像するとき、速度や強弱、楽曲の気分の変化に気付いて、楽しんで音楽を聴き、楽曲の気分が変わるところで人形の絵を挙げるができているかどうかを見取る。 ・「どうしてそう感じたの？」と問いかけ、発言の内容や学習カードの記述に、聴き取った音楽を形づくっている要素について、音楽の特徴と関連付けて、文や言葉で表すことができているかどうかを評価する。
<p>第3時 「A表現・歌唱」</p> <p>○「こぎつね」の曲の気分を感じ取って歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～3番の情景やこぎつねの気持ちを捉える。 ・範唱に合わせて歌詞唱する。 	<p>【関一①歌唱】</p>	<p>◇行動の観察・発言の内容・演奏の聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こぎつねの気持ちやその周囲の様子について考えたことを積極的に発言しようとする姿を見取る。 ・発言の内容に見られる学習内容への関心、友達の発言に対する反応、歌っているときの表情や体の動きの観察、歌声の聴取から見取る。補助簿に記録しておく。
<p>第4時 「A表現・歌唱」</p> <p>○「こぎつね」の曲の気分にあった歌い方を工夫して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレーズごとや場面ごとなど、分担して歌詞唱する。 ・1～3番の歌詞の表す様子や気持ちで歌い方を工夫する。 ・「やまのなか」「ふゆのやま」「あなのなか」の繰り返しの部分の歌い方を工夫する。 	<p>【創一①歌唱】 【技一①歌唱】</p>	<p>◇学習カードの記述・発言の内容・演奏の聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こぎつね」の歌詞の表す気持ちにあわせてイメージを膨らませたり、「やまのなか」「ふゆのやま」「あなのなか」の繰り返しの部分を強弱や歌い方を工夫したりするなど、音楽のよさや面白さを生み出している要素の働きに気付いているかどうか、表現したい思いが表れているかどうかを学習カードの記述や発言の内容、歌っているときの表情や体の動き、歌声の聴取から見取る。
<p>第5時 「A表現・器楽」</p> <p>○「こぎつね」の旋律を拍の流れにのって、楽曲の気分に合わせて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階名で模唱したり階名唱をしたりする。 ・拍の流れにのって鍵盤楽器で演奏する。 ・こぎつねの気持ちになって歌ったことを思い出して演奏する。 	<p>【関一②器楽】 【創一②器楽】</p>	<p>◇演奏の聴取・発言の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて階名模唱したり、楽譜の階名を読んで階名唱したりしたあと、階名暗唱した旋律を拍の流れにのって鍵盤楽器で演奏している様子から見取る。 ・歌を歌っているときと同じような気持ちでフレーズを感じたり、強弱を工夫したりして「こぎつね」の気持ちに合う表現で演奏しようとしているかどうかなどの発言の内容を補助簿に記録しておく。
<p>第6時 「A表現・歌唱」「A表現・器楽」</p> <p>○工夫したことを生かして気持ちをこめて「こぎつね」を歌ったり楽器を演奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループや全体で演奏する。 	<p>【技一②器楽】 【技一①歌唱】</p>	<p>◇演奏の聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こぎつねの様子をまねしながら歌ったり、繰り返しの部分をよびかけ合ったりするようなイメージで強弱を工夫して歌ったり演奏したりするなど、実際の演奏で音楽表現できているかどうかを見取る。補助簿に記録しておく。



■ 一単位時間の中で、指導に生かす評価と、通知表や指導要録の観点別評価の判断のために収集する評価の違いが分かる事例

題材名 音の重なりを感じて 第3学年「A表現・器楽」 教材名「パフ」

本題材は、扱い時数3時間の計画です。1時目は、曲の感じをつかんで主旋律を楽器で演奏することができるようにし、副次的な旋律についても親しみます。2時目は、互いの音を聴き合いながら、グループで演奏の工夫をすることができるようにします。本時である3時目は、楽器が重なり合う響きを感じ取りながら、合奏することができるようにする展開案です。

1 本時の目標

- 友達の楽器の音や伴奏を聴きながら、自分の音を合わせて合奏をし、楽器が重なり合う響きを感じ取りながら、「パフ」の合奏をすることができるようにする。

2 本時に位置付けた評価規準

- 友達の楽器の音や伴奏を聴きながら、自分の音を合わせて「パフ」の合奏をしている。

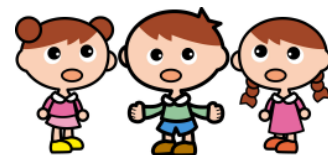
【音楽表現の技能】

3 本時の指導と評価の計画

○学習内容 ・学習活動	評価方法の具体 (◇) とその進め方 (・)
<p>○重なり合う音の響きに気を付けてグループごとに演奏をする。</p> <p>・グループで、前時に考えた工夫したいと考えたことを確認して、楽器の重なり合う音の響きに気を付けながら発表に向けて練習する。</p>	<p>◇グループ活動の観察・グループ活動における演奏の聴取</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「おおむね満足できる」状況 (B)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の音を聴いて合わせようとしている。 ・ 楽器の音色や音量のバランスなどに注意して演奏している。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的には「体で拍を感じている」「アイコンタクトをとって合わせようとしている」などの姿を観察したり、実際の演奏を聴取したりして、「十分満足できる」状況 (A) と「おおむね満足できる」状況 (B) にある児童については、できるだけ補助簿などに記録しておく。 ・ この時点で「努力を要する」状況 (C) にある児童については、 <div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>支援：同じパートの友達の近くで音を聴きあいながら演奏させたり、速度を落として練習するよう助言したりする。自信をもって演奏できているところについては、合わせて演奏したときの重なり合う音の響きに気付かせるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じて、うまくできているグループを全体の場で紹介し、よい点などを具体的に評価して、他のグループのモデルとすることなどが考えられる。

	<p>・リコーダーの基礎的な技能や読譜の状況などに課題があると思われる児童については、あらかじめ本時の以前に個別指導等の対応をしておくことなどが大切である。</p> <p>ここでは、主に「十分満足できる」状況(A)と「おおむね満足できる」状況(B)の記録をするとともに、形成的な評価に基づく適切な指導を行う。</p>
<p>○グループ発表会を開き、学級のみんなの前でグループごとに演奏する。</p> <p>・各グループとも、工夫する点を紹介してから演奏し、そのよさを学級で共有する。</p> <p>・演奏を聴いたグループの代表は演奏についての感想を述べる。</p>	<p>◇演奏の観察・演奏の聴取</p> <p>・グループごとに演奏させる際には、特にグループ活動のときに「努力を要する」状況(C)にあった児童を中心に評価する。また、「おおむね満足できる」状況(B)にあった児童についても、グループ活動のときの演奏に比べて進歩が見られれば、改めて補助簿に記録する。</p> <p>ここでの評価は、通知表や指導要録の観点別評価の判断のために収集する評価であるので確実に記録に残す。また、ここではすべての児童について、最低でも「おおむね満足できる」状況(B)と評価できるように、それまでに形成的な評価とそれに基づく適切な指導を行っておくことが大切である。</p>
<p>○楽器が重なり合う響きを感じ取りながら、学級全員で合奏をする。</p> <p>・学級全員で合わせて演奏し、学級全員での合奏を楽しむ。</p>	<p>・ここでは、本題材の学習のまとめとして、学級全員で合奏を楽しむことを目的とする。楽器が重なり合う響きを感じ取らせながら楽しく合奏させて、今後の意欲につながるようにする。</p> <p>ここでは学級全員での演奏について、今後の励みとなるようなコメントをすることなどが考えられるが、個別の児童についての評価は必要としない。</p>

小学校音楽科における学習評価事例 3



■ 「音楽表現の創意工夫」の評価の進め方が分かる事例

第4学年において、歌唱教材「ゆかいに歩けば」を取り上げて、旋律や曲の特徴を生かして、曲想にふさわしい表現の仕方を工夫しながら歌う学習を展開する場合の評価方法について示します。

題材名 旋律の特徴を感じて 第4学年「A表現・歌唱」 教材名 「ゆかいに歩けば」

本題材は、扱い時数3時間の計画です。1時目は、旋律の特徴を聴き取り感じ取って、主旋律を歌うことができるようにし、本時である2時目は、旋律の特徴を生かして、どのように歌うのか表現の工夫をすることができるようにする展開案です。3時目は、下のパート（低声部）も歌って曲想を生かして二部合唱することができるようにします。

1 本時の目標

○ 旋律の特徴を生かして、「ゆかいに歩けば」の主旋律の歌い方を工夫することができるようにする。

2 本時に位置付けた評価規準

○ 「ゆかいに歩けば」の旋律、リズム、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。

【音楽表現の創意工夫】

3 本時の指導と評価の計画

○学習内容 ・ 学習活動	◇評価方法の具体とその進め方																
<p>○旋律の特徴を感じ取って、「ゆかいに歩けば」を歌い、歌い方を工夫する。</p> <p>・個人で表現の工夫について考え、楽譜に書き込む。</p> <p>・グループの友達と話し合いながら歌って試し、表現の工夫をする。</p> <div data-bbox="97 651 657 1019" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>補助簿の例</p> <p>◎…「十分満足できる」状況(A)</p> <p>○…「おおむね満足できる」状況(B)</p> <p>△…「努力を要する」状況(C)</p> <table border="1" data-bbox="129 862 625 1019"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>名前</th> <th>児童の発言内容・行動観察</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td>同じリズムに気付く だんだん強く歌いたい</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td>気が付か言えない 楽譜を見ていない</td> <td>△</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>○幾つかのグループの発表を聴き、交流をする。</p> <p>・発表を聴いたグループは、感想を述べる。</p> <p>○学級全員で合唱をする。</p> <p>・全体で表現の工夫をして歌う。</p> <p>・自分は、どのような表現の工夫にしたいのか学習カードに書く。</p>	番号	名前	児童の発言内容・行動観察	評価	1		同じリズムに気付く だんだん強く歌いたい	◎	2			○	3		気が付か言えない 楽譜を見ていない	△	<p>◇発言の内容・行動の観察・学習カードの記述</p> <p>「おおむね満足できる」状況(B)</p> <p>・どのように歌うかについて音楽的な根拠をもって、自分の考えや願い、意図をもっている。</p> <p>前時までの学習で聴き取り感じ取ったことを基に、どのように歌いたいのかを個人で考えさせて、楽譜に書き込ませる。これは、評価を必要としない。</p> <p>個人で楽譜に書き込んだことを基に、グループの友達と話し合いながら歌って試している場面で、発言の内容や行動の観察をする。</p> <p>例えば、</p> <p>「前半の弾んだ感じのところは、スタッカートの付いている音と付いていない音の歌い方を工夫しようとしている」</p> <p>「なめらかな感じのところは、のばす音が1音ずつ高くなっていくごとに強弱を工夫しようとしている」</p> <p>「歌詞がこのような情景だから、このように歌いたいと歌詞の内容に合う歌い方にしようとしている」</p> <p>など、音楽のよさや面白さを生み出している要素の働きに気付いているかどうか、表現したい思いが表れているかどうかの発言の内容や実際に歌って試している姿を評価する。このとき、「十分満足できる」状況(A)と「おおむね満足できる」状況(B)にある児童については、できるだけ補助簿に記録しておく。</p> <p>本時の学習のまとめとして、自分はどのような表現の工夫にしたいのかを学習カードに書かせる。旋律、リズム、強弱、反復などの、音楽のよさや面白さを生み出している要素の働きと関連させて、どのように表現を工夫したいのか、思いが表れているかどうかを評価する。本時の評価は、学習カードの記述内容に準じて評価し、発言の内容も加味して評価する。</p>
番号	名前	児童の発言内容・行動観察	評価														
1		同じリズムに気付く だんだん強く歌いたい	◎														
2			○														
3		気が付か言えない 楽譜を見ていない	△														

児童aの学習カード

「ゆかいに歩けば」をどんなふうに工夫して歌いたいと思いましたか？その理由も書いてみよう。

こんなふうに歌いたい
同じリズムのところは、3回でくるけど、だんだんつよくなりたい。

理由は
のばす音が1音ずつ高くなっているし、3回同じリズムをくりかえすから、どんどんもりあがっている感じがする。

「同じリズムが繰り返されているところに気付いて、強弱を工夫しようとする」等、聴き取り、感じ取ったことを、音楽を形づくっている要素に触れながら、どのように歌うかという思いや意図について記述することができているのであれば「おおむね満足できる」状況(B)と判断できる。

児童aは、同じリズムが3回繰り返されていることを聴き取り、1音ずつ音が高くなるという旋律の音の動きを生かした強弱を工夫しようとしており、質的に高まっている状態といえる。授業中の発言と合わせて、「十分満足できる」状況(A)と判断した。



Q これからは1時間に1回または2回程度、評価を行えばよいということですか？

A 通知表や指導要録などのために記録に残す評価についてはそのようになります。しかしながら、その評価は本時の指導目標が達成できたかどうかという教師自身の評価でもあるので、すべての児童が最低でも、「おおむね満足できる」状況（B）と評価できるようにしたいものです。そのためには、それまでの過程において、今まで通りに、児童の学習状況について、形成的評価とそれに基づく適切な指導を行うことはいうまでもありません。

Q すべての児童の状況を評価するのは難しいと思いますが、何かよい工夫はないですか？

A 1時間の中で、すべての児童について評価を行うのは確かに難しいと思います。「音楽表現の創意工夫」や「鑑賞の能力」の観点については、授業の終末などでワークシートに記述させるなどして、その記録をもって評価することなどの方法をとることも考えられます。しかしながら、「音楽表現の技能」については、実際に音楽表現をしている場面を観察したり、聴取したりして評価するしかないので、できるだけ簡便な教師用チェックリストなどを準備し、計画的に評価を進めることが大切です。

Q 毎時間の評価の記録はどのようにすればよいですか？

A 本時に位置付けた評価規準に基づいて、あらかじめ教師用チェックリストなどを作っておくとよいと思います。記録はできるだけ簡便にして（例えば、Bは空欄、Aのみに○、Cは気になる点をメモなど）、効率的に評価できるようにしておくと思います。

Q 収集した評価の記録を総括するにはどのようにしたらよいですか？

A 本事例では、観点ごとに1つまたは2つの評価規準を設定しています。題材における観点別の評価を総括する場合は、2つの評価規準を設定したとき、どちらかの学習状況を重視することもあり、重視するほうに重点を置いて評価することがあります。また、指導内容に即してどちらも同等に重要であるとするときは、同等に扱って総括することもあります。

題材における観点別の評価の総括や、一定期間における観点別の評価の総括については、例えば、「A表現」領域では、必要に応じて、歌唱、器楽、音楽づくりの活動分野ごとに観点別評価のデータを集約することも考えられるし、また、ABCを数値で表す方法もあります。

この手引きは、国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の工夫改善のための参考資料」（小学校）などを参考にして、作成しています。詳細については、以下のURLをご参照ください。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryuu.html>